

全段連 第三次環境自主行動計画（温暖化対策）

<2017年12月7日改訂>

2017年12月7日
全国段ボール工業組合連合会

全国段ボール工業組合連合会は、地球温暖化への対応として2013年度～2016年度を計画期間とした第二次環境自主行動計画に引き続き、次の第三次環境自主行動計画を設定し、段ボール工場におけるCO₂排出量の削減に取り組む。

<計画>

- ・ 目標：2006年度～2008年度の3年間平均に対し、2017年度～2020年度の4年間平均でCO₂総排出量を15.4%、CO₂原単位で21.9%削減する。
- ・ 自主行動計画参加社数：60社
- ・ 全国段ボール生産量に対するカバー率：71.0%（2016年度）
※参加企業が42社から60社に増えたため自主行動計画を改訂。

<目標値>

項目	単位	基準年度	参考実績	計画年度	
		2006～2008年度 平均	2016年度	2017～2020 年度平均	2016年度比 (%)
貼合生産量 ^{※1} (60社)	百万 m ² /年	9,447	9,967	10,241	102.7
CO ₂ 総排出量	t-CO ₂ /年	599,474	507,331	507,331	100.0
CO ₂ 削減量 ^{※2}	t-CO ₂ /年	—	92,143	92,143	—
CO ₂ 削減率	%	—	15.4	15.4	—
CO ₂ 原単位 ^{※3}	kg-CO ₂ /千 m ²	63.46	50.90	49.54	97.3
原単位削減率	%	—	19.8	21.9	—

【注】2015年4月に改定された資源エネルギー庁のエネルギー源別標準発熱量と炭素排出係数を使用。また、基準年度以外のCO₂排出量算定における電力の炭素排出係数は2010年度の数値を用いた。

※1：基準年度、及び2016年度は参加60社の実績、計画年度は予測。

※2：基準年度に対するCO₂の削減量。

※3：CO₂総排出量を貼合生産量で割った値。

<計画について>

段ボール生産量は通販用段ボールを中心に好調であり、2016年に過去最高を更新し2020年のオリンピックに向けて更に増えることが予想され第三次計画期間の4年間平均で2.7%増加すると予測した。この場合、CO₂原単位が2016年度並みで推移するとCO₂総排出量も2.7%増加する。CO₂原単位については第二次計画までに基準年度比約20%の改善を行い、CO₂削減効果の大きいボイラーの重油から都市ガスへの燃料転換は可能なものはほとんど完了しており、今後大幅な改善は困難な状況にある。この状況を鑑み、今回の第三次計画は生産量増加によって増加するCO₂総排出量を、更なる原単位改善の上積みによってカバーし「CO₂総排出量を増やさない」という目標とした。

<参加企業リスト>

(社名 50 音順)

浅野段ボール(株) 旭紙業(株) (株)朝日段ボール 池下紙業(株) (株)エーワンパッケージ エスパックス(株)
恵那ダンボール(株) 大阪紙器工業(株) 王子コンテナ(株) オカジ紙業(株) 鎌田段ボール工業(株)
関西パック(株) 神崎紙器工業(株) (株)キョードー キンキダンボール(株) 協同紙工(株) 協和紙工(株)
協和ダンボール(株) 久門紙器工業(株) (株)クラウン・パッケージ 五洋パッケージ(株) ザ・パック(株)
三協段ボール(株) (株)サンコー (株)三興段ボール セッツカートン(株) (株)千成工業所 ダイナパック(株)
大陽紙業(株) (株)タカオカ タルタニパック(株) 大王パッケージ(株) 大日本パックス京都(株) 中央紙器工業(株)
千代田明和ダンボール(株) 東海紙器(株) (株)トーシンパッケージ (株)トーモク 東北旭紙業(株)
中津川包装工業(株) 日段(株) 日東紙器工業(株) 日本紙工業(株) 日本紙器(株) 日本青果包装(株)
日本パッケージ(株) ヒラダン(株) 広島段ボール(株) (株)フジダン 北陸紙器(株) 三笠紙工業(株) 美鈴紙業(株)
ムサシ王子コンテナ(株) 森紙業(株)(関連グループ企業含む) 山下印刷紙器(株) 山田ダンボール(株)
大和紙器(株) ヤマトヤ(株) レンゴー(株) 和歌山王子コンテナ(株)

以上